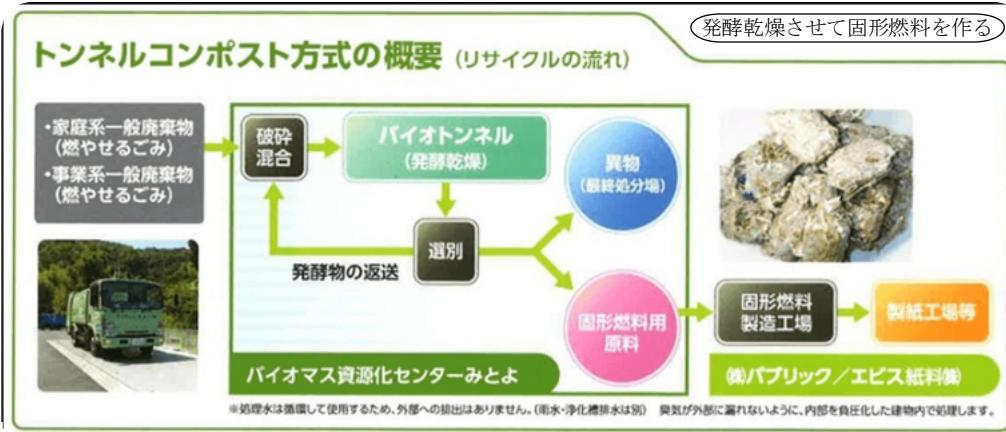


広域組合が新しい  
ゴミ処理方式検討へ

# 焼却しない発酵乾燥 トンネルコンポスト方式へ



時にCO<sub>2</sub>が出るが  
固体燃料を燃やす  
時にCO<sub>2</sub>が出るが  
③CO<sub>2</sub>は、ごみ処理場  
ではありません  
が、固体燃料を利用して燃

する必要があります。  
①これまで進めてきたプラスチックを分別しゴミを減量する流れとは逆に、混合しごみを増量する流れに戻る可能性があります。  
②生産される固体燃料の安定的な買い手が必要なことです。三豊市では、近隣の大手製紙会社から「固体燃料を全量引き受ける」との確約を得ています。

## ゴミ増量の可能性 固体燃料の買い手は

一方で、次の課題を検討

## 方針転換へ意欲を示す

管理者(和田彦根市長)

現時点では、管理員(和田彦根市長)は、これまでの方針を撤回するとは言っていませんが、方針転換への意志は明白です。

同市長は15日の臨時会で次のように述べました。「トンネルコンポストは新しい特殊な技術ではなくヨーロッパでは当たり前の方針だ。

日本の人口は、世界80億の70分の1、陸地面積は360分の1だ。その日本に世界のロッパの町がどうなっている

CO<sub>2</sub>などが出ない  
建設費は半額以下か  
そのことから次の利点が生

「トンネルコンポスト方式」は香川県の三豊市で採用されています。ゴミを燃やすのでなく発酵させる方式です。発酵する熱でゴミを乾燥させて固体燃料をつくります。

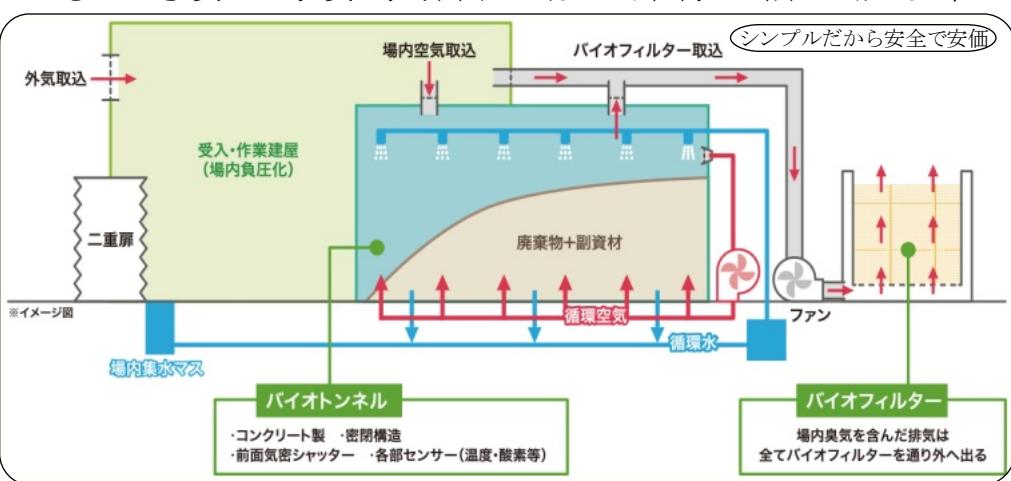
燃やさず発酵させる

ここへ来て「彦根愛知犬上広域ごみ処理計画」が大きく変わった可能性が出てきました。10月15日の広域組合の臨時会で、これまでとは異なる「トンネルコンポスト方式」の検証と視察に628万8千円の予算案が可決されたのです。トンネルコンポスト方式とは何か、その利点と課題は何か。当局を方針変更に向かわせたものは何か、考えてみます。

①ゴミを燃やさないのでCO<sub>2</sub>や有害物質があまり出ない。  
排水、臭気は陰圧にした施設の内部で循環し再利用するので外に出ない。

②複雑な焼却施設とは異なりシンプルな発酵・乾燥施設なので、安全面でも財政面でも大幅な改善がもたらされる。現時点で290億円の建設費用は半額以下になると考えられる。

「CO<sub>2</sub>を出さず、費用が少ない」これは私たちが指摘してきた「2つの負の遺産」を解消する方式です。



# 荒神山に

大金を食らい大量  
のCO<sub>2</sub>を吐き出す

# 化け物はいらない



現在の荒神山と麓の建設計画地

## ギリギリの時点での 思いがつながつた

こうした事態を前にして、

2つめは、犬上3町で「ごみ半減計画策定」の請願採択が採択されたことです。「ごみ半減計画策定を求める請願」が採択されたことです。」「ご

## 犬上3町で「ごみ半減計画策定」の請願採択

その背景には、長い夏日、異常な豪雨、超大型台風、ヨーロッパの森林火災など、目の

当たりにする世界と地域住民の危機感がありました。

# 化け物はいらない

のか、その情況を含めて検証したい。過渡期で難しいかも知れないが、今、焼却炉を作つたら目も当てられない状況に来ている。多少の困難を乗り越えていきたい。一番大事なことは営業だ。」

## 「ごみの半減」

### 根本目標を掲げた

何が彼の背中を押したのか。

まず1つは、「守る会」が

「ごみの半減」という根本的

解決の目標を掲げて運動したことです。上勝町の笠松元町長をお招きした「5・15ゴミ

半減のつどい」をきっかけにして、その流れが関係者や住民に広がっていきました。

その背景には、長い夏日、異常な豪雨、超大型台風、ヨーロッパの森林火災など、目の

当たりにする世界と地域住民の危機感がありました。

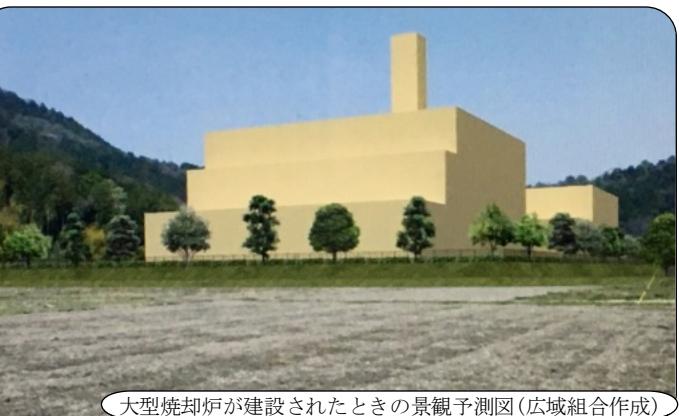
## 「住民説明会」「住民討論の場」が

3つめは、その議会の様子が「住民説明会」で紹介され、その場が真剣な住民討論になつたことです。「荒神山を守る会」を始め多くの参加者が率直な意見を述べました。

当初「ごみ半減などできな

い。無理な目標を立てると逆効果になる」と強弁していた事務局が「市町が半減を決定するなら処理施設の規模を縮小する」と言わざるをえなくなりました。

「膨大なCO<sub>2</sub>と莫大な財政負担の責任を誰がもつのか。事務局がもてるのか。広域組合の議員がもつのか。市町の議員が持つのか。誰も持たないから最後は住民のところに付けが回るのではないか」という指摘に、会場は静まりかえり、事務局は一言も答えられませんでした。



大型焼却炉が建設されたときの景観予測図(広域組合作成)

## 「ごみ半減」貫き財政負担とCO<sub>2</sub>を減らす

「守る会」は、これからも「ごみの半減」の方針を貫き、様々な運動を進めます。どんなごみ処理方式になるにせよ、ゴミの抜本減量こそがCO<sub>2</sub>を減らし財政負担を減らすことになるからです。

広域組合が踏み出しつつある「大型燃焼施設からの撤退」を支持し、さらに促します。同時にトンネルコンポスト以外の方法も視野に入れて、よりよい処理方法を検討し提案

「ごみ半減」は議員が普通に考えれば必ず賛成する内容でした。だから、党派を超えた議員の皆さんが「守る会」の請願の紹介議員になりました。

全ての市町が「ゴミ半減」をすればゴミ処理施設は不要になると。3町での議会請願可決の流れが決定的な力になったと思われます。